

妙法蓮華經。藥王菩薩本事品。第二十三

爾の時に宿王華菩薩、佛に白して言さく、

世尊、藥王菩薩は云何してか娑婆世界に遊ぶ。世尊、是の

藥王菩薩は若干百千萬億那由他の難行苦行あらん。善哉

世尊、願わくは少し解説したまえ。諸の天・龍神・夜叉・

乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽・人非人等、又他

の國土より諸の來れる菩薩及び此の聲聞衆、聞いて皆歡喜

せん。

爾の時に佛、宿王華菩薩に告げたまわく。

乃往過去無量恒河沙劫に佛いましき、日月淨明德如來・

應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・

天人師・佛・世尊と號けたてまつる。其の佛に八十億の大

菩薩摩訶薩・七十二恒河沙の大聲聞衆あり。佛の壽は四萬二

千劫、菩薩の壽命も亦等し。彼の國には女人・地獄・餓鬼・

畜生・阿修羅等及び諸難あることなし。地の平かなること

掌に如くにして、瑠璃の所成なり。寶樹莊嚴し、寶帳上

に覆い、寶の華幡を垂れ、寶瓶・香爐、國界に周徧せり。七

寶を臺と爲して一樹に一臺あり。其の樹臺を去ること一箭道

を盡くせり。此の諸の寶樹に皆菩薩・聲聞あつて其の下に

坐せり。諸の寶臺の上に各百億の諸天あつて天の伎樂を作

し、佛を歌歎して以て供養を爲す。

爾の時に彼の佛、一切衆生喜見菩薩及び衆の菩薩、諸

の聲聞衆の爲に、法華經を説きたもう。是の一切衆生喜見

菩薩樂つて苦行を習い、日月淨明德佛の法の中に於て、

精進經行して一心に佛を求むること、萬二千歳を滿じ已つ

て、現一切色身三昧を得。此の三昧を得已つて、心大に歡喜

して即ち念言を作さく、

我、現一切色身三昧を得たる、皆是れ法華經を聞くことを得る力なり。我、今當に日月淨明德佛及び法華經を供養すべし。

即時に是の三昧に入つて、虚空の中に於て曼陀羅華・摩訶曼陀羅華・細抹堅黒の栴檀を雨らし、虚空の中に満てて雲の如くにして下し、又海此岸の栴檀の香を雨らす。此の香の六銖は價直娑婆世界なり、以て佛に供養す。是の供養を作し已つて、三昧より起つて、自ら念言すらく、

我神力を以て佛を供養すと雖も身を以て供養せんには如かじ。

即ち諸の香・栴檀・薰陸・兜樓婆・畢力迦・沈水・膠香を服し、又瞻蔔・諸の華香油を飲むこと千二百歳を満じ已つて、香油を身に塗り、日月淨明德佛の前に於て、天の寶衣を以て自ら身に纏い已つて、諸の香油を灑ぎ、神通力の願を以て自ら身を然して、光明徧く八十億恒河沙の世界を照す。其の中の諸佛、同時に讚めて言わく、善哉善哉、善男子、是れ眞の精進なり、是れを眞の法をもつて如來を供養すと名く。若し華・香・瓔珞・燒香・抹香・塗香・天繪・旛蓋及び海此岸の栴檀の香、是の如き等の種種の諸物を以て供養すとも、及ぶこと能わざる所なり。假使國城・妻子をもつて布施すとも、亦及ばざる所なり。善男子、是れを第一の施と名く。諸の施の中に於て最尊最上なり、法を以て諸の如來を供養するが故にと。

是の語を作し已つて各默然したもう。其の身の火燃ゆること千二百歳、是れを過ぎて已後、其の身乃ち盡きぬ。一切衆生熹見菩薩是の如き法の供養を作し已つて、命終の後に復日月淨明德佛の國の中に生じて、淨徳王の家に於て結跏

跏趺坐して忽然に化生し、即ち其の父の爲に而も偈を説いて言さく、

大王今當に知るべし 我彼の處に經行して

即時に一切 現諸身三昧を得

大精進を勤行して 所愛の身を捨てにき

是の偈を説き已つて父に白して言さく、

日月淨明德佛今故お現に在す。我先に佛を供養し已つて

解一切衆生語言陀羅尼を得、復是の法華經の八百千萬億

那由他・甄迦羅・頻婆羅・阿閼婆等の偈を聞けり。大王、我

今當に還つて此の佛を供養すべしと。

白し已つて即ち七寶の臺に坐し、虚空に上昇ること高さ七

多羅樹にして、佛所に往到し頭面に足を禮し、十の指爪を合

せて、偈を以て佛を讚めたてまつる。

容顏甚だ奇妙にして 光明十方を照したもう

我適會供養し 今復還つて親近したてまつる

爾の時に一切衆生熹見菩薩是の偈を説き已つて、佛に白し

て言さく、

世尊、世尊猶故世に在す。

爾の時に日月淨明德佛、一切衆生熹見菩薩に告げたまわ

く、

善男子、我涅槃の時到り、滅盡の時至りぬ。汝牀座を安施

すべし、我今夜に於て當に般涅槃すべし。

又一切衆生熹見菩薩に勅したまわく、

善男子、我佛法を以て汝に屬累す。及び諸の菩薩大弟子

并に阿耨多羅三藐三菩提の法、亦三千大千の七寶の世界・

諸の寶樹・寶臺、及び給侍の諸天を以て悉く汝に付す。

我が滅度の後、所有の舍利亦汝に付屬す。當に流布せしめ廣

く供養を設くべし、若干千の塔を起つべし。

是の如く日月淨明德佛、一切衆生熹見菩薩に勅し已つて、夜の後分に於て涅槃に入りたまひぬ。爾の時に一切衆生熹見菩薩、佛の滅度を見て、悲感懊惱して佛を戀慕したてまつり、即ち海此岸の栴檀を以て積と爲して、佛身を供養して以て之を燒きたてまつる。火滅えて已後、舍利を收取し、八萬四千の寶瓶を作つて、以て八萬四千の塔を起ること三世界より高く、表刹莊嚴して、諸の旛蓋を垂れ衆の寶鈴を懸けたり。爾の時に一切衆生熹見菩薩、復自ら念言すらく、我是の供養を作すと雖も心猶未だ足らず、我今當に更舍利を供養すべし。

便ち諸の菩薩大弟子及び天・龍・夜叉等の一切の大衆に語らく、

汝等當に一心に念ずべし、我今日月淨明德佛の舍利を供養せん。

是の語を作し已つて、即ち八萬四千の塔の前に於て、百福莊嚴の臂を然すこと七萬二千歳にして以て供養す。無數の聲聞を求むる衆・無量阿僧祇の人をして、阿耨多羅三藐三菩提の心を發さしめ、皆現一切色身三昧に住することを得せしむ。爾の時に諸の菩薩・天・人・阿修羅等、其の臂なきを見て憂惱悲哀して、是の言を作さく、

此の一切衆生熹見菩薩は是れ我等が師、我を教化したもう者なり。而るに今臂を燒いて身具足したまわず。

時に一切衆生熹見菩薩、大衆の中に於て此誓言を立つ、我兩つの臂を捨てて必ず當に佛の金色の身を得べし。若し實にして虚しからずんば、我が兩つの臂をして還復すること故の如くならしめん。

是の誓を作し已って自然に還復しぬ。斯の菩薩の福德・智慧の淳厚なるに由つて致す所なり。爾の時に當つて三千大千世界六種に震動し、天より寶華を雨らして、一切天人未曾有なることを得。

佛、宿王華菩薩に告げたまわく、

汝が意に於て云何、一切衆生慧見菩薩は豈に異人ならんや、今の藥王菩薩是れ也。其の身を捨てて布施する所、是の如く無量百千萬億那由他數なり。宿王華、若し發心して阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲することあらん者は、能く手の指・乃至足の一指を然して佛塔に供養せよ。國城・妻子及び三千大千國土の山林・河池・諸の珍寶物を以て供養せん者に勝らん。若し復人あつて、七寶を以て三千大千世界に満て、佛及び大菩薩・辟支佛・阿羅漢に供養せん。是の人の所得の功德も、此の法華經の乃至一四句偈を受持する、其の福の最も多きには如かじ。

宿王華、譬えば一切の川流・江河の諸水の中に、海爲れ第一なるが如く、此の法華經も亦復是の如し。諸の如來の所説の經の中に於て最も爲れ深大なり。又土山・黑山・小鐵圍山・大鐵圍山及び十寶山の衆山の中に、須彌山爲れ第一なるが如く、此の法華經も亦復是の如し。諸經の中に於て最も爲れ其の上なり。又衆星の中に月天子最も爲れ第一なるが如く、此の法華經も亦復是の如し。千萬億種の諸の經法の中に於て最も爲れ照明なり。又日天子の能く諸の闇を除くが如く、此の經も亦復是の如し。能く一切不善の闇を破す。又諸の小王の中に、轉輪聖王最も爲れ第一なるが如く、此の經も亦復是の如し。衆經の中に於て最も爲れ其の尊なり。又帝釋の三十三天の中に於て王なるが如く、此の經

も亦復是の如し。諸經の中の王なり。又大梵天王の一切衆生の父なるが如く、此の經も亦復是の如し。一切の賢聖・學・無學及び菩薩の心を發す者の父なり。又一切の凡夫人の中に須陀洹・斯陀含・阿那含・阿羅漢・辟支佛爲れ第一なるが如く、此の經も亦復是の如し。一切の如來の所説、若しは菩薩の所説、若しは聲聞の所説、諸の經法の中に最も爲れ第一なり。能く是の經典を受持することあらん者も亦復是の如し。一切衆生の中に於て亦爲れ第一なり。一切の聲聞・辟支佛の中に菩薩爲れ第一なり。此の經も亦復是の如し。一切の諸の經法の中に於て最も爲れ第一なり。佛は爲れ諸法の王なるが如く、此の經も亦復是の如し。諸經の中の王なり。

宿王華、此の經は能く一切衆生を救いたもう者なり。此の

經は能く一切衆生をして諸の苦惱を離れしめたもう。此の經は能く大に一切衆生を饒益して、其の願を充滿せしめたもう。清涼の池の能く一切の諸の渴乏の者に滿つるが如く、寒き者の火を得たるが如く、裸なる者の衣を得たるが如く、商人の主を得たるが如く、子の母を得たるが如く、渡りに船を得たるが如く、病に醫を得たるが如く、暗に燈を得たるが如く、貧しきに寶を得たるが如く、民の王を得たるが如く、賈客の海を得たるが如く、炬の暗を除くが如く、此の法華經も亦復是の如し。能く衆生をして一切の苦・一切の病痛を離れ、能く一切の生死の縛を解かしめたもう。若し人此の法華經を聞くことを得て、若しは自らも書き、若しは人をして書かしめん。所得の功德、佛の智慧を以て多少を

等量すとも其の邊を得じ。若し是の經卷を書いて華・香・瓔珞・燒香・抹香・塗香・旛蓋・衣服・種種の燈・蘇燈・

油燈・諸の香油燈・瞻蔔油燈・須曼那油燈・波羅羅油燈・
 婆利師迦油燈・那婆摩利油燈をもつて供養せん。所得の功德
 亦復無量ならん。

宿王華、若し人あつて是の藥王菩薩本事品を聞かん者は、
 亦無量無邊の功德を得ん。若し女人にあつて、是の藥王菩薩
 本事品を聞いて能く受持せん者は、是の女身を盡くして後に
 復受けじ。若し如來の滅後、後の五百歳の中に、若し女人あ
 つて是の經典を聞いて説の如く修行せば、此に於て命終し
 て、即ち安樂世界の阿彌陀佛の大菩薩衆の圍繞せる住處に往
 いて、蓮華の中の寶座の上に生ぜん。復貪欲に惱されじ。亦
 復瞋恚・愚癡に惱されじ。亦復憍慢・嫉妬・諸垢に惱され
 じ。菩薩の神通・無生法忍を得ん。是の忍を得已つて眼根
 清淨ならん。是の清淨の眼根を以て、七百萬二千億那由他
 恒河沙等の諸佛如來を見たてまつらん。是の時に諸佛、遙か
 に共に讚めて言わく、

善哉善哉、善男子、汝能く釋迦牟尼佛の法の中に於て、是
 の經を受持し讀誦し思惟し、他人の爲に説けり。所得の福德
 無量無邊なり。火も燒くこと能わず、水も漂わすこと能わ
 じ。汝の功德は、千佛共に説きたもうとも、盡くさしむるこ
 と能わじ。汝今已に能く諸の魔賊を破し、生死の軍を壞
 し、諸餘の怨敵皆悉く摧滅せり。善男子、百千の諸佛、
 神通力を以て共に汝を守護したもう。一切の世間の天・人の
 中に於て汝に如く者なし。唯如來を除いて其の諸の聲聞・
 辟支佛・乃至菩薩の智慧・禪定も、汝と等しき者あることな
 けん。

宿王華、此の菩薩は是の如き功德・智慧の力を成就せり。
 若し人あつて是の藥王菩薩本事品を聞いて、能く隨喜して善

しと讚さんぜば、是この人ひと、現世げんぜに口くちの中うちより常つねに青蓮華しょうれんげの香かを出いだし、身みの毛孔もうくの中なかより常つねに午頭梅檀ごづせんたんの香かを出いださん。所得しよとくの功德くどく上に説とく所ところの如ごとし。是この故ゆえに宿王華しゆくおうけ、此この藥王菩薩やくおうぼさつ本事品ほんじほんを以もつて汝なんじに囑ぞく累るいす。我わが滅度めつどの後のち、後のちの五百歳さいの中なか、閻浮提えんぶだいに廣宣流布こうせんるふして、斷絶だんぜつして惡魔あくま・魔民まみん・諸天しよてん・龍りゆう・夜叉やしや・鳩槃荼等くはんたとうに其その便たよりを得えせしむることなかれ。

宿王華しゆくおうけ、汝當なんじまさに神通じんづうの力ちからを以もつて是この經きようを守護しゆごすべし。所以ゆえは何ん、此この經きようは則すなわち爲これ閻浮提えんぶだいの人ひとの病やまいの良藥りやうやくなり。若もし人病ひとやまいあらんに是この經きようを聞きくことを得えば、病やまい即すなわち消滅しょうめつして不老不死ふろうふしならん。

宿王華しゆくおうけ、汝若なんじもし是この經きようを受持じゆじすることあらん者ものを見ては、青蓮華しょうれんげを以もつて抹香まつこうを盛もり満みてて、其その上うえに供散くさんすべし。散じ已おわつて是この念言ねんごんを作なすべし、

此この人ひと久ひとしからずして、必かならず當まさに艸くさを取とつて道場どうじやうに坐ざして諸もろの魔軍まぐんを破はすべし。當まさに法ほうの螺かいを吹ふき大法だいほうの鼓つづみを擊うつて一切衆生さいしゆじやうの老ろう・病びやう・死しの海うみを度脫どだつすべし。

是この故ゆえに佛道ぶつどうを求もとめん者もの、是この經典きやうてんを受持じゆじすることあらん人ひとを見ては、應まさに是この如ごとく恭敬くきやうの心こころを生しやうずすべし。是この藥王やくおう菩薩ぼさつ本事品ほんじほんを説ときたもう時とき、八萬四千まんの菩薩ぼさつ、解げ一切衆生さいしゆじやう語言陀羅尼ごこんだらにを得えたり。多寶如來寶塔たほうにらいほうとうの中なかに於おいて宿王華菩薩しゆくおうげぼさつを讚ほめて言のたまわく、

善哉善哉ぜんざいぜんざい、宿王華しゆくおうけ、汝不可思議なんじふかしぎの功德くどくを成就じやうじゆして、乃すなわち能よく釋迦牟尼佛しやくかむにぶつに此この如ごときの事じを問といたてまつりて、無量むりやうの一切衆生さいしゆじやうを利益りやくす。